

1 アンケート調査からみられる市民ニーズ

(1) 未就学児童・小学生保護者

○子育て環境や子育て支援の現状について[未就学児童保護者・小学生保護者]

[未就学児童保護者]
・相談相手が「いる」の割合が、前回調査と比べると減少
・日常生活において2割の方が孤立感を感じている
・地域でつきあえる知人や友人などで、「気軽におしゃべりができる人」が、前回調査と比べると減少
また、孤立感を感じる方は、「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」を求めている

[小学生保護者]
・子育てに関して日常悩んでいることは、「子どもの教育に関すること」、「子どもを叱りすぎている気がする」が高い
・相談相手が「いる」の割合が9割だが、「いない」の割合が1割
・地域の人から見守られている方、日常生活での孤立感を感じない方は、未就学児童保護者よりも高い
また、孤立感を感じる方は、「本音で子育てについて話ができる人」を求めている

○保護者の就労状況について[未就学児童保護者・小学生保護者]

[未就学児童保護者]
・母親の就労状況は、「フルタイム」が、前回調査と比べると増加
・母親の育児休業制度の取得率は、前回調査と比べると増加
[小学生保護者]
・母親の就労状況は、「フルタイム」、「パートタイム」がともに、前回調査と比べると増加

○教育・保育事業の利用状況について[未就学児童保護者]

・幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業を「利用している」が、前回調査と比べると増加
また、その事業の内訳で、特に「認可保育所」が、前回調査と比べると増加
・現在利用している、していないに関わらず定期的に利用したい事業は「認可保育所」が最も高く、前回調査と比べても増加
・0～2歳児における子育てに対する考えで、「育児休業制度が整っていれば、在宅で子育てしたい」が最も高い

○地域子ども子育て支援事業について[未就学児童保護者]

・お子さんが病気やけがで教育・保育の事業が利用できなかったことは9割を超えて高いものの、母親、もしくは父親が休んで対応している
・私用、リフレッシュの目的で、一時預かり等の事業を利用したい方は8割
・この1年間に、保護者の用事により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことがあった方は1割程度
また、預け先の困難度は「困難」が5割、「困難ではない」が5割
・地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）を利用している方が3割弱
また、「今は利用していないが、今後利用したい」方は2割

○小学校の放課後の過ごし方について[小学生保護者]

・小学校低学年（1～3年生）における、放課後の時間の過ごし方の希望は、放課後子ども教室「ひのっち」が3割を超え、学童クラブが2割を超えている
・小学校高学年（4～6年生）における、放課後の時間の過ごし方の希望は、放課後子ども教室「ひのっち」が3割を超え、児童館が2割を超え、学童クラブが1割を切っている

○日野市の子育て支援策について[未就学児童保護者・小学生保護者]

・今後力をいれていくべきことは、「公園などの遊び場の整備」が最も高く、前回調査と比べても増加
・子育て支援事業の情報の入手先は、「市のホームページや広報誌、子育て支援情報サイトほけっとなび、パンフレット等」と、「友人、知人、隣近所」が高い
・子どもを育てる環境として重視していることは、「安全に生活できるまち」が最も高い

(2) 小学生・中学生の本人

○あなたのことについて[小学生・中学生]

[小学生]
・ふだん悩み事を「だれにも相談しない」が2割弱
[中学生]
・自分のことが好きである割合は、「あてはまる」が6割
・人前で自分の意見をきちんと言え割合は、「あてはまる」が7割
また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加
・自分に自信がなくなる時がある割合は、「あてはまる」が7割
また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加
・今の生活について、満足している方は、前回調査と比べると減少

○学校や友人について[中学生]

・自分の気持ちをわかってくれる友達がいるについては、「まあまあいる」が増加している一方で、「たくさんいる」が減少
・自分を友達に理解してもらおうと努力しているについては、「少ししている」が前回調査と比べると増加している一方で、「している」が減少
・誰でも仲良くなれるについては、「だいたいあてはまる」が前回調査と比べると増加している一方で、「とてもあてはまる」が減少
・自分はクラスにとけ込んでいるは、「まあまあとけ込んでいる」が前回調査と比べると増加している一方で、「とてもとけ込んでいる」が減少

○社会環境について[中学生]

・近所の人とあいさつをするかについて、「自分からあいさつをする」が前回調査と比べると減少
・放課後、休日、夏休みのボランティアの経験は、「ある」が前回調査と比べると減少

(3) 高校生の本人

○あなたのことについて

・普段のことについて、早寝早起き以外、朝食をとる、あいさつ・礼をする、物を大切にするなど、多くの面で「できている」と回答している割合が高く、前回調査と比べても増加
・自分のことであてはまることについて、自分のことが好き、人前で自分の意見をきちんと言えなど、「とてもあてはまる」と回答している割合が前回調査と比べても増加

○学校や友人について

・学校は毎日楽しいかについて、おおむね「楽しい」と回答しているものの、「とても楽しい」は前回調査と比べると減少
・学校・クラス・友達との距離について、今のクラスが好きだ、学校に行くことが楽しみだ、今の学校は好きだについては、「とても好き・楽しみ」が前回調査と比べると減少

○あなたの将来について

・将来の職業イメージをぼんやりでも思い描くことができるかで、「できる」が7割弱であるものの、前回調査と比べると減少
・結婚について、「どちらでもいいと思う」「無理にする必要はない」が、前回調査と比べると増加

○社会環境について

・近所の人とあいさつをするかについて、「自分からあいさつをする」が前回調査と比べると減少
・放課後、休日、夏休みのボランティアの経験は、「ある」が前回調査と比べると増加

(4) 18歳から30歳代

○結婚や出産について

・女性が結婚や出産後も仕事を続けていく上で必要な条件は、「子育て期に多様・柔軟な働き方が選択できるよう制度等を見直す」が最も高い
・働いている間、子どもの世話をどうしたいかについて、「保育所や託児所に預ける」が最も高く、前回調査と比べても高い
・最近の子育て中の家庭について、「親自身の日常生活にゆとりがない」が最も高い

(5) 子育て関連事業者・団体

○子育ての実態について

・子どもやその親たちがもつ悩みについて、「発育・発達に関すること」が最も高い
・児童虐待の問題について、「親の育成歴による世代間連鎖」「親が未熟で自分の感情を抑えられない」が最も高い
また、児童虐待の防止には、「日常的な育児相談機能の強化」「母親の育児不安への早期対策、カウンセリング、治療の実施」が求められている

○子育て支援活動について

・保護者の方が地域に求めていることは、「子どもが自由にのびのびと遊べる場所がほしい」が最も高い

(6) 企業

○子育ての実態・必要な対策について

・仕事と子育ての両立に可能な環境を整備・充実していく上で重要なことは、「病後児保育、延長保育、駅前保育所の設置等の充実」が最も高いが、前回調査と比べると減少
・今後取り組みたいと思っていることは、「有給休暇の取得」が最も高い

2 計画の見直しに向けた課題

○養育環境からみる現状と課題

・家庭類型の変化、未就学児童の保護者においてはフルタイムで働く母親が増加している小学生の保護者においてはフルタイム及びパートタイムで働く母親が増加している
・子育ての孤立化、相談相手のいない母親が顕在化している
・子育てについて、子どもの発達・発育に対する悩みが、不安の増大につながっている可能性がある
・教育・保育に対するニーズの変化、保育ニーズの高まりがみられる
・0～2歳においては育児休業制度が整っていれば、本来は在宅で子育てをしたいと思っている
・小学生の放課後の過ごし方について、放課後子ども教室「ひのっち」、学童クラブ、児童館のニーズが高く、年代によるニーズの違いがみられる
・公園など遊び場の整備が求められ、かつ、まち自体が、安全に生活できることが、子どもを育てる環境として求められている

○子どもの育ちからみる現状と課題

・中学生本人調査から、学校や友人については若干変化がみられ、友人関係で悩んでいることがうかがわれる
・地域とのつながりに若干の課題がみられる
・前回調査と比べると、子どもをもつこと、結婚をすること、働くことなど、将来に対し、イメージが少しぼんやりしていることがうかがわれる

○計画見直しに向けた課題

・在宅子育て支援
・放課後対策
・子どもの体験活動・社会参加促進

○計画見直しにおいて留意すべきこと

・人口推計及びニーズ量の分析による適正な事業量の算出
・利用者支援事業の構築により適正な誘導